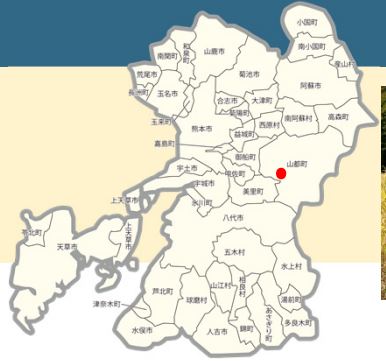
下矢部東部地区（山都町）

ふるさとの未来へ種をまく　～若い力で「農」の暮らしを築く～



ビジョンの概要

地区の課題

・農業機械の投資や維持が負担となっている
・農業後継者が不足している
・イノシシ、シカによる有害鳥獣被害が多い
・耕作放棄地が増えている

ビジョン

地区の目指す姿

（1）農業で生活できる収入の確保
①農地集積、基盤整備等により作業の効率化。
②農業機械、施設の共同整備によるコスト削減。
③ねぎ、さといも、ピーマンの導入による収益と雇用の確保。
④米直売の販路拡大。
⑤飼料作物やWCSによる収益の確保。

（2）若者が多く、子供の多い集落
①「農事組合法人いちょう」の雇用による後継者の育成。

（3）有害鳥獣による農作物被害の防止
①重機や乗用草刈り等の導入による耕作放棄地の解消、草刈り作業の効率化。
②農地の集団化等による効率的な鳥獣害対策の実施。
③罠設置数の増加。

（4）有害鳥獣による農作物被害の防止
①農産物直売所の設置。

成果目標

・さといも・ねぎ・ピーマンの作付け面積をそれぞれ10a増やす。
・農作業受託面積を1haにする。

ビジョン策定のプロセス

耕作放棄地が増え、地域の衰退に歯止めを

アンケートとワークショップで課題整理

アンケート調査、ワークショップを実施。地域の問題点、課題、強み、将来像、課題解決策、営農法人などについて話し合った。

農業組合法人いちょう設立

県地域振興局を交えてアンケート調査の内容検討とモデル地区農業ビジョン策定について協議。実施母体となる「農業組合法人いちょう」を令和3年に設立、事業がスタートした。

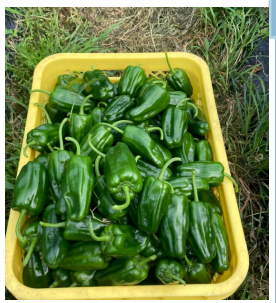
地域ブランド化で直販に舵を切る

地域の主要作物である米をいかに高く売れるかが大きな課題だった。米をブランド化して直販へ舵を切ることがビジョンの重要ポイントとなった。

具体的取り組み

（1）農業で生活できる収入の確保

●農地集積、基盤整備等により作業の効率化
→意欲ある担い手に集積していきたい。
●農業機械、施設の共同整備によるコスト削減
→農事法人で田植え機、トレーラー、畔塗機を導入した。
●ねぎ、さといも、ピーマンの導入による収益と雇用の確保
→栽培技術が十分でなく、収量が上がっていない。
さといも、さつまいもは地元の流通業者の買取が決まった。
●米直販の販路拡大
→農事法人で主食用60aを作付け。東京農大のアンテナショップで「棚田米」を販売。自分たちの米が売れることを実感、ブランド化への自信となった。
●飼料作物やWCSによる収益の確保
→ WCSを30a作付けし出荷できた。



（2）若者が多く、子どもの多い集落

●「農事組合法人いちょう」での 雇用による後継者の育成
→人、農地の受け皿となって、地域活力のけん引役に。

（3）有害鳥獣による農作物被害の防止

●重機や乗用草刈り等の導入による耕作放棄地の解消や草刈り作業の効率化
→耕作放棄地で飼料用米を栽培。
●農地の集団化等による効率的な鳥獣害対策の実施
→予算的に難しい。
●罠設置数の増加
→未着手。

（4）地域資源を生かした活性化

●農産物直売所の設置
→道の駅が開設されたら、販売する予定。

成果

成果目標

・さといも、ねぎ、ピーマンの作付け面積をそれぞれ10aとする。
・農作業受託面積を1haにする。

結 果

・さといも⇒11a作付け
・ねぎ⇒12a作付け
・ピーマン⇒25a作付け

今後に向けて

①栽培技術の確立で新作物の収益確保

②コロナ後の需要の拡大を図る